

科学技術に関する調査プロジェクト報告書3点を刊行しました

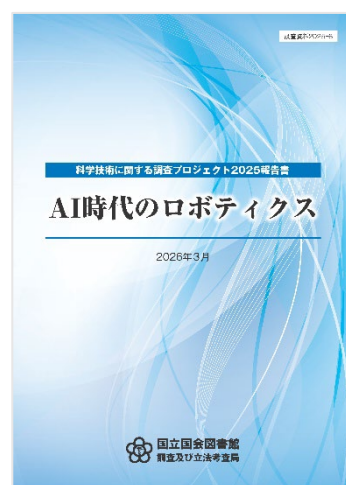
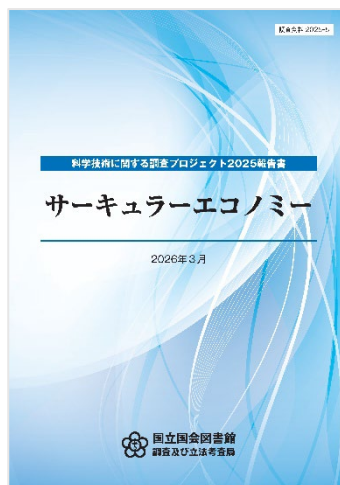
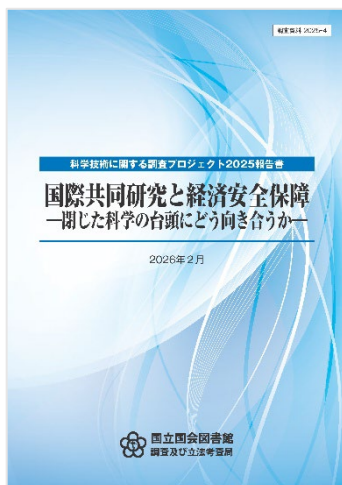
『国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—』
『サーキュラーエコノミー』
『AI時代のロボティクス』

国立国会図書館調査及び立法考査局は、科学技術分野に係る重要な国政課題の中から特定のテーマを選定し、外部の専門家と連携して調査・分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を、毎年度実施しています。

この度、令和7（2025）年度のプロジェクトの成果として、次の3つのテーマについて、当館職員による調査や大学研究者等への委託による調査等の結果を取りまとめた報告書を刊行しました。

- 👉 『国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭にどう向き合うか—』
- 👉 『サーキュラーエコノミー』
- 👉 『AI時代のロボティクス』

各報告書とも、テーマ分野の基礎的情報から関連する論点・課題までを幅広く調査・分析し、正確な情報を基に、客観性・中立性に配慮した上で、分かりやすく取りまとめるよう努めました。各テーマにおける課題を理解する一助として、是非ご活用ください。



■ 『国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭はどう向き合うか—』(調査資料 2025-4)

本報告書は、令和7(2025)年9月26日にオンライン開催したシンポジウム「国際共同研究と経済安全保障—閉じた科学の台頭はどう向き合うか—」の記録集です。国家間の政治的・経済的対立が研究活動や人材育成に及ぼす影響等を踏まえ、国際社会との関係を踏まえた我が国の科学技術・イノベーションの在り方について、有識者による議論を通じて展望した内容をまとめました。吉岡(小林)徹氏による問題提起、浅谷公威氏、齊藤孝祐氏、明谷早映子氏による報告、村上由紀子氏によるコメントに加えて、パネルディスカッションの記録及び吉岡(小林)徹氏による解説を掲載しています。

■ 『サーキュラーエコノミー』(調査資料 2025-5)

資源・製品の価値の最大化を図り、資源投入量・消費量を抑えつつ、廃棄物の発生を最小化につながる経済活動全体の在り方を示すというサーキュラーエコノミーの概念が、重要性を増しています。本報告書では、環境政策や資源エネルギー政策など、関連する諸施策の今後の議論に資するため、我が国における概要と現状、プラスチック及びリチウム蓄電池のリサイクルに関する現状と課題、EU・イタリア・米国の関連政策、グリーンウォッシュをめぐる諸課題について、学識経験者のご助言、ご指導を受けつつ分析・整理を試みました。

■ 『AI時代のロボティクス』(調査資料 2025-6)

AI技術が急速に発展する中で、より自律的で汎用性が高いロボットの実現が期待されています。AIを搭載したロボットが普及すれば、産業や生活は大きく変化することが予想されますが、技術の発展に伴って社会の側から検討すべき課題があることも指摘されています。本報告書では、第一線の研究者が、AIとロボット工学(ロボティクス)の融合について現状を学際的な観点から分析し、技術的な課題や可能性、社会実装をめぐる論点を整理、さらにロボティクスの発展がもたらす社会の在り方について考察しています。

■ 入手方法

国立国会図書館のホームページにPDFファイルで全文を掲載しています。

URL: <https://www.ndl.go.jp/diet/publication/document/2026>

国立国会図書館トップ> 国会関連情報> 調査資料> 2026年刊行分



■ お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部総務課広報係 電話: 03-3506-5103 (直通)

(参考) 調査及び立法考査局の「立法調査サービス」

国会議員からの依頼に基づき、政治、経済、社会、文化、科学技術等、広範な分野の国政課題について、根拠となるデータの収集や事実関係の調査から、論点整理、分析・評価まで、多岐にわたる調査を行います。また、現在・将来の国政課題について調査した成果を報告書などにまとめ、国会議員に提供しているほか、国立国会図書館ホームページで公開しています。